

一西だより

豊川市立一宮西部小学校通信
令和6年 5月15日 第7号
発行；校長 村上謙一

【木村泰子先生の講演から】

私たちがこれまで「子どものために」あたり前に行ってきた教育活動を、目の前の子どもの事実から大人のみんが問い直す。これが木村泰子先生の講演でいただいた宿題です。

10年後、20年後の予測することが難しい社会で生きる子どもたちに必要な力は何かを教職員みんな考えています。そして一人ひとりの教職員が変われることは何か、職員室が変わらなければならないことは何か、対話を通して考えていきます。

泰子先生の講演の資料15ページ（本校HP「木村泰子先生の講演」ページに掲載）には次の言葉がありました。

**大人の関わりの問い直しを
自律させない…依存をつくる 従順さを求める
違いを認めない…同質性を求めマイノリティ
ーを切り捨てる
対話の機会を与えない…意見を言わせない
対立を「ジャッジ」で解決する…子ども同士が
分断される
正解を解く・・・正解のない問いを問い続ける
力を奪う**

- ・学校が行ってきた「学級経営」は、担任の願いや価値観を子どもに押し付ける（自立させない）ものではなかったか。
 - ・「みんなでいっしょに」という考え方は、違いを認めない価値観の押し付けではなかったか。
 - ・一西小のやくそく（校則）に子どもの意見を聞く対話の機会をもたなくてよいのか。
 - ・子どものトラブルの解決に、大人の価値観でジャッジして、「ごめんなさい」を無理強いしてはいなかったか。大切なのは、子どもと子どもをつなぐこと。
 - ・先生にとって都合の良い答えを正解とすることで、答えのない問いを問い続ける力を育てていなかったのではないか。
- 泰子先生が示されたたった一つの資料だけで、私はこれだけの問い直しを見つけました。問い直しは尽きることのない取り組みになりそうです。

泰子先生の講演では、「チーム担任制」についての言及がありました。本校が中・高学年で取り組みを始める「チーム担任制」は子どもがもつ多様な個性に、教職員も複数の個性や価値観で向き合おうというものです。これが子どもの自律を支援するものになると信じています。「一西小のやくそく」の見直しは、子どもたちに意見表明の機会を与えて、なりたいたい自分に近づく、自分がつくる自分の学校への第一歩となるはずです。「マラソン大会」の見直しは、正解のない問いを問い続けることを学ぶ貴重な機会になるはずです。

泰子先生の講演を感動で終わらせない。こんな決意で、時代の変化に合わせて柔軟に変わっていく一宮西部小学校づくりを目指しています。泰子先生の講演資料は本校HPに掲載中です。また、視聴者を本校保護者に限定して講演の内容をYouTubeにアップしています。視聴先アドレスは学びポケットで配信していますのでご確認ください。講演をお聞きになった方もお越しいただけなかった方も是非ご確認ください。この資料と動画のアップは木村泰子先生からの承諾を得ています。動画については保護者に限定ですので、視聴アドレスの拡散はご遠慮ください。

【緊急下校訓練の様子】

5月9日
（木）天候の急激な悪化や災害発生を想定した緊急下校訓練を行いました。緊急時に家に帰る



のか、学校にとどまるのか、4月当初に確認していますが、子どもたちのなかには、どちらか忘れてしまっている子もいます。ご家庭からの記入も、変更が重なる中で判別できないケースもありました。こういった「わからないこと」が浮き彫りになることも訓練の成果です。その時に備えて、訓練で得た課題を解決して万全の態勢を整えます。安全・安心な学校づくりの一環です。|